

# か た つ む り 【低学年 3 - ( 1 )】

## - 話し合いを中心とした取組み -

( 1 ) 主題名 生き物を大切にしよう [ 3 - ( 1 ) ] 関連項目 [ 4 - ( 1 ) ]

( 2 ) ねらい 身近な生き物を大切に、やさしい心で接しようとする心情を育てる。

( 3 ) 資料名 「かたつむり」

( 4 ) 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留 意 点
導 入	1 生き物を飼った経験を発表する。	<p>生き物を飼って「かわいいな」とか「かっこいいな」「おもしろいな」と思ったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハムスターが寝ているところがかわいい。</li> <li>・クワガタがけんかをするのがかっこいい。</li> </ul>	生き物と触れあい、どんな気持ちになったか想起させる。
展 開	<p>2 資料の前半を聞いて話し合う。</p> <p>4 自分の生活を振り返る。</p>	<p>かたつむりが死んでしまったことをみんなはどう思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かわいそうだな。</li> <li>・ごめんね。</li> <li>・飼い方が悪かったのかな。</li> </ul> <p>残ったかたつむりはどうしたらいいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かわいそうだから逃がしてあげよう。</li> <li>・自然の方がいいから逃がしてあげよう。</li> <li>・世話をしっかりして、みんなで大切に飼った方がいい。</li> <li>・飼い方をきちんと調べて、飼おう。</li> <li>・2年生にもらったものだから、飼おう。</li> </ul> <p>生き物を大事にしたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・犬の散歩を手伝っている。</li> <li>・アリの行列を踏まないようにした。</li> </ul>	<p>児童の反応を確かめながら読み進める。</p> <p>絵を使って、かたつむりに対するみんなの思いを想像しやすくする。</p> <p>自分の立場を決めて、理由をしっかりと考えさせる。そのためにワークシートに書かせてから話し合わせる。</p> <p>自分の経験を振り返ることで、価値の自覚を深める。</p>
終 末	5 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生き物の命を大切に思ったり、生き物が気持ちよく生活できるように考えて飼ったりすることが大切なんだね。</li> </ul>	生き物にやさしい心で接することの大切さを話す。

## かたつむり

二年生のえりちゃんが、わたしたちのきょうしつにやってきて、いいました。

「かっているかたつむりが、いっぱいふえたから、なんびきが一年生にあげようか。」

わたしは、すぐにこたえることができますでした。でも、きょうしつのうしろであそんでいたつよしくんが、すぐに、

「いる。いる。ぼくたちも、かたつむりをかってみたい。」

とこたえました。それをきいて、わたしのとなりにいたゆみちゃんも、

「だいにそだてるから、わたしたちにかたつむりをちょうだい。」

といいました。わたしも、そのきになって、

「みんなでせわをしておうよ。」

といいました。

わたしたちは、えりちゃんにかいかたをおしえてもらい、五ひきのかたつむりをもらって、かうことになりました。

それから、一か月がたったある日。ゆみちゃんが、大きな声でさげびました。

「かたつむりが、二ひきしんでるよ。」

みんな、かたつむりのいる水そうのまわりにかけよりました。しんだかたつむりを見て、みんなは、だまってしまいました。

わたしは、こころのなかで、

「かいかたがわるかったのかな。ごめんね。かたつむりさん。」

とつぶやきました。

そのとき、つよしくんがいました。

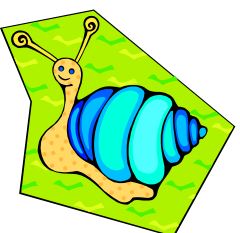
「かたつむりがかわいそうだから、にがしてあげようよ。」

それをきいたゆみちゃんが、

「いやよ。せわをしっかりするから、みんなつづけてかうよ。」

と、なきそうな声でいいました。

わたしは、どうしたらいいのか、かんがえこんでしまいました。



# 活用に生かすための実践報告

「かたつむり」

## 1 主題の設定

身近な動植物と触れ合うことは、それらに対するやさしい心を養う。低学年では多くの児童が生き物に興味を持っている。しかし、生き物を自分の持ち物として所有することで満足してしまったり興味がすぐに薄れてしまったりして、継続して世話をすることができなくなることが多い。また、しっかり世話をしているのに飼っていた生き物が死んでしまうこともある。この資料では、どの教室でもありがちなそんな状況を想定し、自分たちの経験と重ね合わせて考えられるようにした。資料を通して、動植物のことをやさしく思う心を育てたい。

## 2 指導過程の工夫

導入では、生き物とのかかわりについての経験を発表することで関心を高めるが、他の導入例として、かたつむりの写真や実物を見せることも効果的であると考えた。

簡単な紙芝居を作成し、教師が絵を見せながら資料を提示することで児童の資料把握を容易にすることができる。

## 3 発問の工夫

中心発問ではジレンマ資料のような扱いになっているが、どちらの立場も、かたつむりに対してやさしい気持ち考えることが大切であり、そういう気持ちを価値あることとしてとらえさせたい。

## 4 児童の反応（授業後の感想）

児童は、家庭で飼っているペットや学校での飼育の経験をもとにたくさんの発表をした。そのため、生き物を飼いはじめるときの

喜びや生き物の死については、自分のことのように発表した。

【残ったかたつむりは、どうしたらいいか考える。】

〔にがす〕

- ・またかたつむりが死んだり、苦しんだりするから。
- ・自然の中で生きていくことが生き物にはいいから。
- ・残りのかたつむりが死んだらいやだし、自然で生きていく方がいいから。
- ・えりちゃんには悪いけど、全部死んでしまったらいけないし、自然で生きていく方がいいから。
- ・かたつむりのお母さんも心配しているかもしれないから。
- ・かたつむりもこんなところにすみたくないと思っている。

〔飼い続ける〕

- ・一生懸命育ててきたのだから飼い続けた方がいい。
- ・世話をして最後まで飼う。

## 5 実践者からの一言

ワークシートを書かせることは児童の実態によっては難しい。1年生には、自由に発表させ友だちの意見から考えを深めていく方がよいかもしれない。また、複式学級であるため2年生の意見を聞いて1年生が「なるほど」といった表情で聞いている姿がみられた。

どの児童も生き物の命の大切さや飼うことの責任について考えを深めることはできたように思う。

（湯来西小学校 奥谷 徹）